

令和3年(2021年)10月29日

長野県病害虫防除所

病害虫発生予察特殊報 第2号

病名：サツマイモ基腐病

病原菌：*Diaporthe destruens* (Harter) Hirooka, Minosh. & Rossman

作物名：さつまいも（かんしょ）

1 発生確認経過

令和3年7月、県南部のさつまいも栽培ほ場において茎葉の枯死が見られ、株元地際の茎が黒変した株が確認された（図1）。県野菜花き試験場で病原菌の分離、病原性確認および分離菌の遺伝子解析を行ったところ、サツマイモ基腐病であることが確認された。

本病は平成30年に沖縄県で初確認され、令和3年10月7日現在、21都道県で確認されている。

2 病徴及び被害

- (1) 発生初期では、黄化して生育が不良となる。その後、株元地際部の茎の部分が暗褐色または黒色に変色し、症状が進行すると茎葉が枯死、塊根の腐敗が見られる（図1）。
- (2) 発病株には多数の黒い粒状の柄子殻が形成され、雨水等により内部から大量の分生子が飛び散る（図2）。分生子は風雨やほ場の停滞水により、周辺の株に感染する。
- (3) 病原菌は糸状菌の一種で、宿主作物はヒルガオ科植物のみ（主にかんしょ）である。病原菌は植物残渣上で越冬し、翌年の伝染源となる。
- (4) 塊根は収穫時に無病徴でも、収穫後の貯蔵中に発病することがある。



図1 株元地際の黒変症状

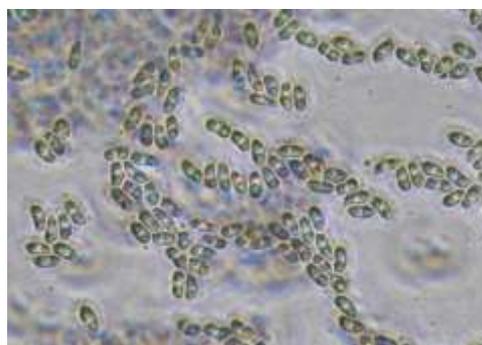


図2 分生子（野菜花き試験場 提供）

3 防除対策

- (1) 排水不良は発病を助長するので、植付前に排水対策を行う。
- (2) 植付前には表1を参照し、ほ場の土壌消毒を行う。
- (3) 未消毒の苗は表1を参照し、防除する。
- (4) 発病株（茎葉や塊根）は速やかに抜き取り、肥料袋等に入れ、ほ場外に持ち出し適切に処分する。
- (5) 発病株の除去後に、周辺株への感染予防のため表1を参照して防除する。
- (6) 本病が発生したほ場は、翌年のさつまいも栽培は避け、ヒルガオ科以外の作物を輪作する。
- (7) 発生したほ場で使用した農機具、資材等は、洗浄及び逆性石鹼等で消毒を行う。
- (8) 詳細な防除対策は、生研支援センターイノベーション創出強化研究推進事(01020C)「サツマイモ基腐病の発生生態と防除対策」（令和2年度版）を参照する。
(https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/138589.html)

表1 サツマイモ基腐病に使用できる殺菌剤一覧

(JPP-NET 2021年10月13日現在)

作用機構分類 (FRACコード)	作物名称	適用病害虫名	殺菌剤名	使用方法 名称	使用時期	本剤の 使用回数	希釈倍数 ・使用量	10aあたり 使用量
M3	かんしょ	基腐病	バスアミド微粒剤	均一に散布 して土壌混 和する	植付21日前 まで	1回以内	—	30kg
M3			ガスタード微粒剤					
1			バンレート水和剤	30分間 苗基部浸漬	植付前	1回以内	500～ 1000倍	—
M3 1			バンレートT水和剤20	30分間 さし苗基部 浸漬			200倍	—
M1			Zボルドー	散布	—	—	500倍	100～300 リットル
NC M1			ジーファイン水和剤		収穫前日 まで	—	1000倍	200～300 リットル
1 1			アミスター20フロアブル		収穫14日前 まで	3回以内	2000倍	100～300 リットル

連絡先 長野県病害虫防除所
 TEL : 026-248-6471 (直通)
 FAX : 026-248-6473
 E-mail : bojo@pref.nagano.lg.jp